

地球温暖化による気候変動の影響は、自然環境や住民生活、さらには産業全体へ及ぶことが懸念されることから、主な原因となつている二酸化炭素排出量の削減に向け、町、企業、住民が連携して取り組んでいくことが重要であります。

このことから、地球温暖化問題の解決に地域レベルで貢献し、安全で豊かな生活環境と産業の活性化のため、2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ八雲」を宣言し、地球温暖化問題に長期的な視点で取り組んでまいります。

また、再生可能エネルギーの導入は、地域の自然エネルギー資源を有効に活用することにより、有効な地域振興策となることが期待されます。八雲町は、さまざまな自然エネルギー資源に恵まれた土地柄であり、これまで蓄電池併用型としては国内最大の太陽光発電所や、酪農のまち八雲町の特徴であるバイオガス発電も稼働しており、令和4年度は、熊石地域において地

熱資源調査と小水力発電事業への着手が予定されております。

持続可能なまちづくりのため、民間活力の活用や連携による再生可能エネルギーの導入を促進するとともに、地域新電力による自立分散型エネルギーシステムの構築によるエネルギーとキャッシュの域内循環を目指してまいります。なお、檜山沿岸における洋上風力発電事業については、引き続き、檜山各町および関係機関と連携し推進してまいります。

3. 誰もがいきいき暮らせる健康・医療・福祉の推進

(1) 健康づくりの促進

町民一人ひとりが、生涯にわたり健康でいきいきとした生活を送られるよう、病気の早期発見・早期治療を目的に、特定健診や各種がん検診への受診勧奨を行うとともに、複数の健診が同時に受診できる体制を確保することで、町民の利便性と受診率の

向上を図ってまいります。

また、町民が自分の健康に関心を持ち、生活習慣の改善や病気の予防に取り組めるよう、健康づくり教室等を開催し、健康意識の高揚と知識の普及啓発を行うほか、社会活動にも大きな影響を及ぼす感染症対策については、さまざまな機会を通じて知識の普及啓発に努めてまいります。

新型コロナウイルスの追加接種については、感染症のまん延を予防するため、引き続き円滑な接種が実施できるよう努めてまいります。

(2) 医療体制の充実

八雲総合病院では、新型コロナウイルス感染症の治療拠点としての役割を果たすとともに、感染症治療と並行して、通常の医療提供体制を維持、確保してまいります。

医師確保では、現在3名の内科医師体制に4月からは1名の常勤医師が加わることでなりました。一方で、循環器内科、脳神経外科の常勤医師の確保が大変厳しいところであります。引き続き、医師確保を最優先課題として対

応してまいります。

令和元年度から導入した医療コンサルティングにつきましては、これまで助言いただいた診療報酬制度の活用のほか、本州方面を中心とした医師確保のための情報収集も含めて引き続き取り組みを進めてまいります。

今後とも地域センター病院として、町民の皆さまをはじめ、地域の皆さまに安心して受診していただける病院づくりを、院長と共に私が先頭に立ち、職員一丸となって進めてまいります。

熊石国保病院は、地域住民の生命と健康を守り、安心して暮らしていただけるよう、診療体制を堅持して「かかりつけ病院」としての役割を果たしてまいります。

病院建て替えについては、最終的な方向性など協議を継続してまいります。老朽化が進む現病院内の療養環境の改善や医療人材の確保に、引き続き取り組んでまいります。今後とも地域から信頼される病院として、医療サービスの充実と安定経営に努めてまいります。

(3) 地域福祉の促進

人口減少と少子高齢化が進行する中で、誰もが住み慣れた地域で健やかに暮らしていくためには、地域住民の方々がお互いを思いやり、支え合っていくことが益々重要になります。そのための声掛け見守り活動等が地域活動として励行されるよう、町内会や民生委員協議会等の関係団体と連携を図りながら支援してまいります。

また、引き続き社会福祉協議会と連携を図り、ボランティア団体の各種活動や相談、人材確保の支援に努めてまいります。

(4) 高齢者福祉の推進

八雲町の高齢化率は35%を超え、今後も高齢化の進展が見込まれる中、令和2年度に策定した「八雲町高齢者保健福祉計画・第8期介護保険事業計画」に基づき、引き続き高齢者が住み慣れた地域でいつまでも安心して健やかに暮らし続けられる地域社会を目指す、地域包括ケアシステムの深化、推進に取り組んでまいります。